



クール・ルシャン 第8回演奏会

2009年6月14日(日)

午後2時開演

かつしかシンフォニーヒルズ
アイリスホール



<団員募集中> 経験者歓迎!

クール・ルシャンでは、一緒に歌うメンバーを随時募集しています。

練習日:月3回 第1・2・4土曜日 18時~21時

練習場:市川公民館、船橋市西部公民館など

会費 :月額3,000円 学生月額1,000円(入団費無料)

ホームページ:<http://tomoruoba.web.fc2.com/CCP002.html>

連絡先:() 3 (yo_igeta@mtg.biglobe.ne.jp) 井桁



ごあいさつ

代表 井桁 嘉一



本日はお忙しいところ、ご来場いただき誠にありがとうございます。団ができて今年で十二年が過ぎました。その間に歌っている団員も種々の事情で入れ替わりながらも、合唱が好きなのでなく、音楽的にも満足できるものを目指して歌ってきました。今年の二月には千葉県内の混声合唱団（アンサンブル・シャロン、合唱団イクトウス、千葉ユングルハーモニー、佐倉混声合唱団）とのジョイントコンサートに参加し、普段とは違う合唱を楽しみ、交流も楽しくできました。今日は、アラフォー、アラファイフ世代中心の私たちが、爆発した演奏をしたいと思っております。楽しんでいただければ幸いです。



音楽監督 大場 点

中国料理で点心というものがあります。食事の間にとるちよつとした軽食や間食のことですが、あにはからんやその内容は饅頭や団子の類から餃子や春巻きに至るまで多種多様。また、点心師という点心を専門に作る料理人もいますか。語源はいろいろ説があり、ひとつには「心に点をつける」、つまり心に触れるもの、という意味があるそうです。ちよつとしたものに対してでも心を配る気持ちが伝わってきます。創設十二年にして八回目となる今回の演奏会ですが、二年間じっくり煮込んだそれぞれの曲、わずかな時間ながらも皆様の心に触れるよう、心づくしのおもてなしができればと願っています。

おいしい一時を





休憩

3. 間宮芳生(1929 -)
合唱のためのコンポジション I

4. 信長貴富(1971 -) 編曲
無伴奏混声合唱のための
7つの子ども歌

一番はじめは
通りゃんせ
江戸の子守歌
ずいずいずっころぼし
三地方の子守歌(天満の市は 寝ろじゃ寝ろじゃ 五木の子守歌)
あんたがたどこさ
ていんさぐぬ花

指揮 大場 点

PROGRAM

1. Tomás Luis de Victoria (1548 - 1611)
Missa O magnum mysterium

トマス・ルイス・デ・ビクトリア
ミサ「おお、大いなる神秘」

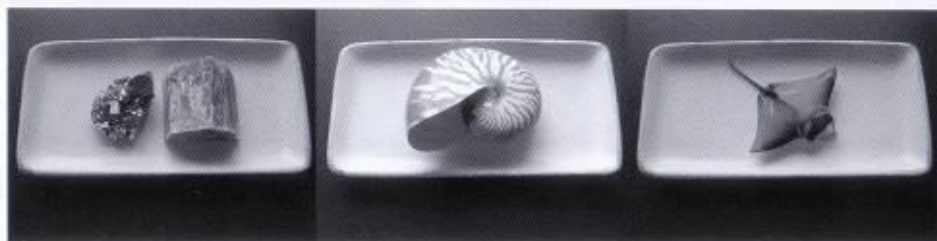
2. Francis Jean Marcel Poulenc (1899 - 1963)
Quatre Motets pour le temps de Noël

フランシス・ジャン・マルセル・プーランク
クリスマスの4つのモテット

O magnum mysterium	おお、大いなる神秘
Quem vidistis pastores dicite	誰を見ましたか、羊飼いたちよ言ってください
Videntes stellam	星を見て
Hodie Christus natus est	今日キリストが生まれた



宗教音楽 ルネッサンス×現代



◆ 作曲作法 ◆

作曲という作業は、全くのゼロから新しい作品を生み出すという場合の他に、何らかの元になる素材を使って新たなものに生まれかわらせる、という場合もあります。それは、目の前の食材を自在のスタイルの料理に仕立て上げる料理人の技に似ています。自作のモテット「おお、大いなる神秘」の旋律を用いてミサ曲を構成したピクトリア、ルネッサンス時代の宗教音楽の主要な形式であるモテットを現代曲として蘇らせたプーランク、日本の伝統音楽を、素材として分類し再構成させた間宮芳生とポピュラー的なセンスで楽しい編曲作品に仕上げた信長貴富、彼らはまさに一流の料理人に例えられる存在でしょう。

◆ ミサとモテットの様相 ◆

ミサ「おお、大いなる神秘」は、キリエからアニユス・デイに至る5曲の随所に、同

名のモテットの旋律が美しく情緒的なフレーズとしてちりばめられている珠玉の作品です。このように他の曲の旋律が転用されたミサ曲はパロディ・ミサと呼ばれ、当時の作曲家の間でかなり流行していました。教会に参列した市民たちは、演奏される曲の中に何の曲の旋律が使われているかを探す、といったことも楽しみにしていたようです。

17世紀以降あまり作曲されなくなった無伴奏合唱による宗教作品は、20世紀に入ってから徐々に見直されるようになりました。「クリスマス」の4つのモテットもその中のひとつで、聖夜のエピソードを綴ったラテン語のテキストに作曲されたものです。4曲とも均整のとれた美しい旋律と重厚な和声に満ち、特に4曲目ではプーランクの作品特有の軽快さでキリスト誕生の喜びが表現されています。プーランクは、親しい友人を事故で亡くすとい

トマス・ルイス・デ・ピクトリア

スペインのルネッサンス時代を代表する作曲家。1564年頃よりローマの修道院で学び、1586年に帰国、終世にわたりマドリッドのカルサス・レアレス女子修道会にて司祭、作曲家、オルガニストなどを勤めた。ローマ時代は大作曲家バレストリーナに師事したようだが、その作風はより自由で、明暗のコントラストや直接感情に訴えかけてくる烈しさなどは、しばしば同時代の画家エル・グレコに例えられる。作品は全て教会音楽で、ミサ曲やモテットなどを多数残している。

フランシス・ジャン・マルセル・プーランク

フランスの作曲家で、エリック・サティらが属した作曲家グループ「フランス6人組」の一人。声楽、室内楽、オペラ、バレエ音楽、オーケストラ音楽など、あらゆる主要な音楽ジャンルの楽曲を作曲している。パリの裕福な家庭に生まれ、ピアノをスペインの名ピアニスト、リカルド・ビニェスに、作曲をシャルル・ケクランにそれぞれ師事している。軽快で旋律に富むその作風から、「モーツァルトの再来」「メロディーを持つ20世紀最後の作曲家」などと評された。

日本伝統音楽 編曲×再構成

Ⅱ口唱歌(くちしょうが)を伴って展開します。

「7つの子ども歌」は、編曲者としての人気も高い信長貴富が、日本の伝承歌の中から「子どもがうたう歌」あるいは「子どものための歌」を集め、「子ども歌」として味わい深い編曲作品に作り出したものです。全国の神社仏閣を数え上げる手鞠歌「一番はじめは」に始まり、転調が不思議な味わいの遊戯歌「通りゃんせ」、陽旋法による編曲が暖かさを醸す「江戸の子守歌」、コミカルな指遊び歌「ずいずいずつころばし」、三つの歌の組み合わせが楽しい「三地方の子守歌」、軽妙でスピード感あふれる手鞠歌「あんたがたどこさ」、そして最後は静かに沖繩民謡「ていんさぐぬ花」。「ていんさぐ(鳳仙花)の花を爪に染めるように親の教えは心に染めなさい」という教訓歌で締めくくられます。

信長貴富 のぶながたかとも

上智大学文学部教育学科卒業後、公務員を経て作曲家として独立。大学在学中より全日本合唱連盟の主催する朝日作曲賞に何度も入選している他、第70回日本音楽コンクール作曲部門(室内楽)にて2位を受賞。アマチュアの合唱団で長年歌っていた経験から作品の大半は合唱曲であり、現在合唱愛好家の間で最も人気の高い作曲家といっても過言ではない。作曲以外にもポップスや歌謡曲などの合唱編曲にも積極的に取り組んでいる。



う不幸をきつかけにして、合唱による宗教作品の作曲に力を入れるようになり、この分野で高く評価される結果となりました。

◆ 日本伝統音楽の変容 ◆

日本民謡を研究し分類していく作業が頓挫してしまつた間宮芳生は、それらを再構成して合唱作品にするというアイデアに辿り着き、「合唱のためのコンポジション」が誕生しました。1958年、東京混声合唱団によって初演され好評を博し、第13回文化庁芸術祭奨励賞と毎日音楽賞を受賞しています。4つの楽章で構成され、第1楽章は江戸と新潟の木遣り歌が、第2楽章は青森県地方の代掻き歌が素材の中心となっており、第3楽章は子守唄とわらべ歌のスタイルをとっています。第4楽章は神楽の形式で、太鼓や笛などの擬音

間宮芳生 まみやみちお

北海道旭川市出身、東京音楽学校(現・東京芸術大学)作曲科卒業。日本の民族的音楽遺産を現代的な音楽へ展開することを出発点として、民謡を素材とした作品を数多く世に送り出している。特に代表作となる「合唱のためのコンポジション」シリーズは、日本のみならずアフリカやスカンジナビア、アメリカ・インディアンなど世界各地の民族音楽を素材として取り上げ、現在まで創作が続けられており、彼の創造の軌跡をそこから辿ることができる。



メンバー&スタッフ



第1回 1999年7月11日(日)
すみだトリフォニーホール小ホール
演目:タリス/5声のモテット、
ダウランド/歌曲集第1巻より、
信時潔/青森民謡集、歌曲集「沙羅」

第5回 2003年6月22日(日)
江戸川区総合区民ホール大ホール
演目:フォーレ/レクイエム、
ジョスカン・デブレ/Stabat mater、
サティ/古い金貨と古い甲冑、他
オルガン:能登伊津子

第2回 2000年6月11日(日)
上野学園石橋メモリアルホール
演目:マショー/ノートルダム・ミサ、
山田耕筰/からたちの花、
バッハ/早口ことばハ64、他

第6回 2005年3月21日(月)
タワーホール船堀(大ホール)
演目:林光/木のうた、
ビクトリア/聖週間のレスボンソリウム、
カザルス/O vos omnes、他
ピアノ:原田玲奈

第3回 2001年6月24日(日)
千葉ばるるホール
演目:オケゲム/ミサ「ミミ」、
ストラヴィンスキー/アヴェ・マリア、
ヴィヴァルディ/組曲「男の四季」、他
賛助出演:Voices わ

第7回 2007年6月2日(土)
市川市文化会館小ホール
演目:オケゲム/Salve regina、
池辺晋一郎/六つの子守歌より、
西村朗/死にたまふ母より、他
ピアノ:佐竹優子

第4回 2002年6月30日(日)
江戸川区総合区民ホール大ホール
演目:プーランク/Salve regina、
メシアン/O sacrum convivium、
ピアソラ/プエノスアイレスの四季、他

Tenor

井桁 嘉一
井手 一彦
稲葉 靖
木内 博和
草場 康裕

Soprano

井桁 由美子
加瀬 典子
草場 愛
小池 親子
佐藤 純子
能代 広美
樋口 恵子
平岡 ひろ子
福田 浩子

Bass

大樋 亨
佐藤 正史
寺嶋 睦
楨幹 雄

Alto

青山 裕子
稲葉 由美子
井上 由紀
草場 澄江
佐々木 睦
高木 裕子
田中 和子

音楽監督 大場 点

1987年千葉大学大学院理学研究科修了。1982年より千葉大学合唱団学生指揮者、1987年よりコーロ・カロス団内指揮者を務め、その間栗山文昭氏のもとで研鑽を積む。1998年にクール・ルシャンを創設し、指揮者に就任。クール・ルシャンのほか、アンサンブル・レーヌ(女声合唱)の指揮者として活動。また、数々の器楽作品や歌謡曲などを合唱用に編曲している。



ヴォイス・トレーナー 錦織 まりあ Mezzo-Soprano

愛知県立芸術大学音楽学部声楽学科首席卒業、桑原賞受賞。国内にて多数演奏する他、海外においてもドイツを中心にワルシャワやウィーンの教会、ホール、オペラ座などで演奏し好評を得る。ドヴォルザーク国際声楽コンクール入選。また、森晶彦氏のもとでフスラー理論に基づいた発声法を学び、現在では多数の声楽家や合唱団のヴォイス・トレーナーとしても活躍中。日本発声指導者協会会員。

これまでの演奏会